

大義の旗掲げ本気の共闘を

参院選の11の1人区で自公に勝利するなど大きな成果を上げた野党共闘。新潟知事選では野党と市民の統一候補が自公推薦候補に6万票の大差で圧勝しました。その力は「原発再稼働は認めない」という「大義の旗」と「本気の共闘」。この経験をきたる総選挙に生かすことが求められています。



当選を喜ぶ米山隆一知事候補(中央)と支持者。10月16日、新潟市の米山選挙事務所(しんぶん赤旗提供)

問われる民進党

志位委員長が指摘

「共産党とは一線を画せ」という連合指導部の要求にどう対応?

日本共産党の志位和夫委員長は記者会見(10月27日)で、きたる総選挙での野党共闘について「市民と野党の“本気の共闘”を実現するため他の野党と話し合っていきたい」と表明。その上で連合指導部が民進党に対して、「共産党とは一線を画せ」と繰り返し要求していることについて次のように述べました。

「この連合指導部の要求に(民

日本共産党

進党が) どう対応するのか。この要求に従う道を選ぶのか、それとも野党と市民の共闘に真剣に取り組む道を選ぶのか—このことがいま民進党に問われていると思います。ここは決断が必要です。ぜひ民進党が前向きな決断をしてほしいと考えています」。

折り目

原発



関電高浜原発の運転差し止めの大津地裁決定を喜ぶ人たち。3月9日、大津市

固執の政治転換を

「再稼働ノー」強い流れ

原発再稼働の是非が国政と地方政治の大問題になっています。新潟知事選(10月16日)では「再稼働を許さない」と訴えた米山隆一氏が大勝。川内原発がある鹿児島知事選(7月)に続く再稼働反対派の勝利です。

5~6割が反対

どの世論調査でも再稼働反対は5~6割。「安全が確保されていない」と高浜原発の即時停止を命じた大津

新潟・鹿児島知事選 ハッキリ審判

地裁決定も出され、安倍政権の「原発固執政治」は完全に破たんしています。

稼働「ほぼゼロ5年」

福島原発事故以降、「稼働完全ゼロ」23カ月を含め、稼働「ほぼゼロ」状態は5年近く続きましたが、「電力危機」は一度も起きていません。「原発ゼロ」を決断すべきです。

日本共産党

TPP 今国会での批准許さない 裏面に特集

しんぶん赤旗

日刊 16 (毎日配達されます) 月3,497円

日曜版 36 (毎週配達されます) 月823円

お申し込みはお近くの党事務所か黨員までお願いします

近畿民報

2016年11月 No.1 (第251号) 発行/日本共産党国会議員団 近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビル102号 Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115 Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を公表しました。